

牛は牛らしく

飼つてやりたい

狂牛病と酪農と

ありのままの暮らし

酪農家・北海道厚岸町
小野寺 浩江
参議院議員
紙 智子



牛の価格下がつて●

います。牛も赤ちゃんを産みづけていれば乳は出るんだけど、出産を繰り返すと牛の健康も不安なので、ある程度の年になつたら、「ありがとう」といって肉牛として出荷するの。

紙 狂牛病の影響で廃用牛の

価格がすごく下がつて、生産者は悲鳴をあげていますよね。釧路ではこれまで一頭当たり十万円で取引されていたものが一万八千円だそうです。小野寺さん

も、牛乳での収入と同時に、肉牛として売つて収入にする部分があれば影響が出ているのでは?

小野寺 これから出てくると思

います。ただ北海道は乳牛が多いから、直接的な打撃というより、

紙 小野寺さんのところは

乳牛ばかりですか。

小野寺 いまはだいぶ少なくなつて子牛も含めて六十五頭。乳搾つて生乳を出荷して

ますます酪農の先行きへの不安感がふくらむと思う。見通しが立たないから後難者も生まれないし。

とにかく政府の農政は規模拡大をすごく進めてきたでしょう。どんどん農場も広げて牛も増やして機械も近代化しなくちゃいけないという感じで、農家はたくさん借金して施設をつくったり機械を入れ替えたり投資した。だからどの酪農家もいまも大きな借金を抱えているんです。でも、そうやると農民として失つちゃいけないものが失つてしまうと思うの。

たとえば、ミルキングバーラーという乳を搾る施設があるんだけど、人間が屈んで搾るんじゃなくて、バーラーに牛を入れてやれば二十頭ずついっぺんに搾ることができる。えさもその土地の草じやなくて外国から輸入している栄養

価の高い飼料を与えていた。だから、たくさんの乳がコンスタントに搾れるんですよ。いくら牛乳は一〇〇%国内で自給しているといつても、その中身は外國に依存しているんですよね。

紙 小野寺さんのところでは朝晩、人の手で乳を搾っているんですね。

ですよ。たしかに以前とくらべたら乳量は少ないけど、それでも何とか生活していくことはできる。屋外で牛を自由にさせる昼夜放牧を取り入れた、うちみみたいな酪農家はすごく少なくなっているんですよ。雨の日や日照りの強い日は牛は草をあまり食べない。そうすれば乳が出ない。日によって乳量の変動が大きいんです。

昼夜放牧●

土にお礼●

小野寺 そう。私たちは十年前に規模拡大をやめて、自分の土地の面積に合った量の牛を飼うことになりました。農業の原点に戻るという感じで。だから、トウモロコシなどの輸入飼料は最小限にして、自分の土地でとれた草をふんだんに食べさせている。その方が健康でいい乳を出してくれるん

いま農業は環境についてもつと考えないといけないところにきてると思うの。まずは糞尿問題。うちは牛の糞尿を水分をきつてわらを入れたりして二年くらいかけてばさばさにするんです。それを土地に還元して、また肥沃な土にする。土にたいするお礼みた

いな感じかな。一方では糞尿を垂れ流して環境を破壊して、土地には外国からの肥料を与えるなんていうのはおかしいと思うんです。

やっぱり牛は草食動物なんだから、安全でなおかつバランスのとれた肥料でできた草をたっぷり食べて、幸せだったと思えるような生涯を送らせてやりたい。そうじゃないと、生産を重視し、その結果として肉骨粉なんて食べさせられて狂牛病になつたりするんじやないかな。

紙 今回の狂牛病事件で初めて肉骨粉とか血粉が牛の飼料に入っていたと知ったという酪農家の方々の声をたくさん聞きました。
小野寺 佐呂間町で出た狂牛病の牛はどういう感染経路だったのかまだ明らかになつていないのです。

感染経路は不明なまま●

紙 真相を明らかにすることは非常に大事です。大臣たちが牛肉を見てみせて農水省や厚生労働省がいくら安全だと宣言して、消費者が安心しないと買い控えるんですよ。そのため大事なのはまず安全対策です。安全だと

いうもの以外は市場に出さないこと。それから原因の究明です。問題の牛が出た農家が使っていた飼

料は五つの飼料会社と報道されていますが、まだ解明されていません。日本では狂牛病が発生したイギリスからの輸入は九六年にはストップしているけれど、EU（歐州連合）からは二〇〇〇年末まではずっと輸入してきた。EUなら安

全かというとそうではないんです。国会で狂牛病問題で参考人を呼んで議論したんですが、小沢さんという国際的獣疫事務局でお仕事をされていた人がおっしゃるには、イギリスからEU、EUから他の国に回つて日本に入ってくる場合もあるそうです。

ところが日本政府は、輸出国が証明書を張つたらそれを信じる。「大丈夫ですか」なんて改めて聞くこと自体失礼だ、という態度です。

それに、イギリスで狂牛病が発生し、世界保健機関（WHO）が肉骨粉を牛に与えないよう勧告を出した後も、日本政府は一片の通知を出しただけで法的規制をしなかった。ニワトリや豚には与えていいとなつていてから、どこかで混ざつてしまつた可能性もあるわ

置をとらないと大変だと追及した
んです。

一片の通達●



かみ・ともこ 1955年、札幌市生まれ。
2001年7月参院議員当選。党国会議員団
狂牛病問題対策委員会事務局長。

ブリオンが混ざつ
てしまつたかもし
れない。これは以
前からイギリスで
は指摘されていた
ことなんですよ。

それを知つていな
がら日本の政府が
手を打たなかつ
た。

けです。

感染経路は真剣に追つていけば
わかるはずで、そうやってつきと
めてこそ、狂牛病発生の原因と対
策がわかるんです。

小野寺 多くの工場では、牛用
の飼料と豚・ニワトリ用の飼料
と、製造ラインが同じなんです。

ラインの洗浄だけでは十分でない
から、狂牛病の感染源になる異常

の国全質問が狂牛病問題だつたん
ですよ。

政府は当初、肉骨粉の輸入を止
めるわけにいかないというんです

よ。いまストップしたら逆に日本
が訴えられるかもしれない。でも
も、肉骨粉が感染経路になる、イ

ギリスやEUが全面禁止にした、
日本も危険な状況になつていて
——というもとでは思いきった措

て、日本でもきちつと肉骨粉を規
制すればよかつたんです。なのに
一片の通達を出しただけで、指摘
されていることをまともに受け止
めず、結局、農家にはまつたく知
られなかつた。

さらに狂牛病の疑いのあつた牛
を肉骨粉として流通させるなど、
政府の対応の不手際が、いつそう
国民の不信を招きました。いまの
事態を招いた責任は政府にあるん
です。

こうして政府の責任をはつきり
させるというのはほかの党はしな
かったんです。大臣などは「責任

を感じている」と口ではいうけれども、なぜこういうことになつた

のかを解説してこそ解決策も生まれるわけですから、そこはあいまいにできないのです。その後、不十分ではありますが、肉骨粉の全面禁止や全頭検査などうたれた対策が、私たちが指摘した方向で動くのを見て、ちゃんと的に当たつた議論をしていくことが大事だな

あと痛感しました。

小野寺 政府の官僚たちって、一般的には頭のいいエリートなんだろうけど、どうして物事をきちんと考へられないのだろうと思ひます。厚生省の薬害エイズもあつたし、外務省の公金着服もあつた。私たち庶民とは価値観もお金の感覚もまったく違うんだろうね。

紙 日本の国民の健康や食の安全を守るという姿勢がないんですよ。

製造年月日 ●

あのでら・ひろえ 1961年、北海道生まれ。家族は夫と、2人の子ども、義父母。

小野寺 雪印の牛乳の食中毒事件があつたでしょ

紙 メーカー主導なんですよ。雪印の事件のときもそうでしたけど、効率優先、安全性後回しなんですよね。

小野寺 牛の数は少なくとも、



う。私のところは雪印に出荷していないなかつたからほとんど影響はなかつたんだけど、一生懸命やつている生産者の思いが消費者まで届かない。乳価はその成分によって決められるんだけど、細菌が多くたりすると下がつてしまふの。たしかに細菌は少ない方がいいんだけど、製造メーカーは生産地に近いところで加工しないで、わざわざ生乳を本州まで持つていってそこで加工して新しい日付にしてしまう。店頭の製品についている製造年月日は、乳を搾った日じやなくて加工した日なんです。

紙 メーカー主導なんですよ。雪印の事件のときもそうでしたけど、効率優先、安全性後回しなんですよね。

朝晩搾乳しなくてはならないから、酪農の仕事は三百六十五日、二十四時間なんです。

ただ最近はヘルパーさんがきて

くれてお金を払えばすべてやってくれるので、昔ほどきつくはないですね。

紙 ヘルパーさんはよくお願いしますか？

小野寺 あまり安いお金じゃないので、家族で旅行にいくときくらいですね。

「生きる力」育つなあ●

酪農は大変な仕事だけど、すごく創意工夫ができるし、楽しい仕事でもあるんです。いっぱい失敗もするし、その時は本当に落ち込んだりやうけど、努力してそのハードルを越えたときの喜びはまたひ

とおなんですよ。なんか「生きる力」が育つなあって思っています。紙 小野寺さんは農家の生まれ？

小野寺 ジゃないんです。農業に関心もなかつたし。でも、たまたま知り合った人が農業をやっていただけ。一人じゃない、夫も一緒というのがまたいいのかな。夫婦だけどお互いに対等の労働者としての関係がつくれるし。そういう意味でもけつこういい仕事かな。でも、かんかんがくがくやる

んで、子どもは「もっと円満な家庭がいい」っていうんですけどね。（笑い）

紙 私の家も農家だったので、両親が畠の真ん中でけんかしていましたよ。

農業は自然を相手にして、自分で考えて仕事を組み立てていける

でしょう。父も一生懸命作ったイモが「いやあ、紙さんのところのイモ、おいしかった」なんていわれんほでも持つていけって（笑い）。生活さえ成り立つていつたまんない仕事はないといつていました。でも、しんどい作業のわりに採算が合わない。祖父母と子ども四人の今後も考えて、結局離農してしまったんですね。すごく悩んだと思います。

でもいま北海道には一生懸命踏みとどまって日本の農業と国民の食を守るためにがんばっている人がいっぱいいる。そういう農家が安心して続けられる収入をどう保障していくかが一番大事です。そういう生産者の思いにこたえる政治についていかなければと思いま

幸せに生きるために●

小野寺 私、牛飼いやりながら考えるんだけど、もちろん経済も大事、効率も必要かもしれない。でも、いま安全な食というのは効率優先では守れないし、人が幸せに生きていくのに、そうした尺度だけでははかれないものつていぱいあるんだよね。

配合飼料を使うのを最小限にすると、飼料屋さんはもうけが少なくなるという。でも、うちみたいな農家が十軒集まれば、うちの五倍の規模の農家一軒を相手にするより二倍もうかるじゃない。農家が離農して都会に出ていたらだんだんと地域経済も地域の生活も成り立たなくなつていくんだから、もう一軒も離農させないよう

な政策をとつた方が、全体のためにはずつといよいよな気がする。

不況だ不況だつていうけど、もともと日本人は働きすぎなんだから、労働時間を半分にすれば倍の労働者が必要になるじゃない。

そうやってひとりひとりの幸せ

をあつめたらもつといい国になるのに思つるだけ。なんといつても政治家が「どこで物事決めているの?」つていう感じだから困るんですよ。

手作りアイスクリーム●

紙 そんな中でも小野寺さんたちは乳製品の加工をしたり、楽しんでいるそうですね。

小野寺 地域にチーズやワインバーやアイスクリームをつくる施設があるんですよ。売るとなると

作る量もたくさんになるし、一定の味を保たなくちゃいけないので、いまのところ我が家で食べたり親しい人にさしあげたりするだけ。自分たちで搾った牛乳で作ったアイスクリームなんてすごくおいしいですよ。

紙 すごく豊かな生活ですね。

小野寺 私たちは規模を縮小して自分たちの時間をやりくりして、いろんなことが見えてきたときに、手作りの良さがわかつてきた。子どもが小麦アレルギーのアトピーだったこともあって、少しずつ国産小麦を使ってパンやお菓子を作り始めたんですよ。それがおいしいの。何かありのままの生活をしているつて感じだし。

紙 小野寺さん手作りのパンを食べながらこれもおいしいです。ごちそうさまでした。(笑)